

## 日本文学研究学域 入学前課題・講評

### 一、課題について

日本文学研究学域の課題は、下記の四冊の著作から、一冊を選んで熟読し、その内容を400字程度で要約したうえで、自分の考えを1000字程度で述べよ、というものでした。

- (1) 笹原宏之『漢字の歴史—古くて新しい文字の話—』（ちくまプリマー新書 219）
- (2) 井上真琴『図書館に訊け！』（ちくま新書 486）
- (3) 吉本隆明『日本近代文学の名作』（新潮文庫よ—20—3）
- (4) 小西甚一『日本文学史』（講談社学術文庫 1090）

### 二、課題ごとの講評

(1)は、古代中国の言語を表わす文字であった「漢字」が、日本語と融合していく歴史を解き明かしています。提出レポートでは、海を渡ってきた異国の文字が、「訓」「万葉仮名」「平仮名」「片仮名」など多彩に変容し、現在まで使われつづけていることへの関心と驚きを指摘するものが多く見受けられました。日頃、使い慣れた日本語の成り立ちの解明を、入学後の目標にしたい、という抱負もみられました。

(2)は、大学図書館におけるレファレンスサービスを、豊富な実例にもとづきながら、解説しています。膨大な図書資料のなかから、必要な文献・電子資料に行き着くための活用法を会得でき、有益だったという感想が目立ちました。レファレンスサービスの利用を押し広げるために、小学校・中学校などでの早期の図書館教育が有効であると主張するレポートもありました。

(3)は、明治から昭和までの代表的文学者24人の作品を取り上げ、著者の吉本隆明独自の観点で、「文学の本質」を解明しています。取り上げられている作家や作品を、実際に読み込んで、分析しながらレポートを書いていた人も多かったのが印象的でした。

(4)は、千年以上にわたる日本文学・文芸の歴史を、「雅」と「俗」という表現理念をもとに、古代・中世・近代に分類した文学史を説いています。提出レポートでは、古来から語りつがれる「神話」の存在や、現在も工夫が重ねられる「歌舞伎」などを具体例に、自分なりに、この本の区分を検証するものがありました。

### 三、まとめ

全体として、内容の要約は、おおむね的確にできていました。指定した著作を丁寧に読んでから、まじめに課題に向きあってくれたことがよくわかりました。いっぽう、自分の考えを述べることに関しては、いささか苦手意識を抱いている人が少なくないようでした。説得力のある文章を書くためには、自分の考えを補強するものを積極的に取り入れるとよいでしょう。たとえば、著作の一部を引用する、用語や現象を詳しく調べる、著作で紹介されている文字資料や文学作品を読んでみる、など、簡単に実践できる材料は数多くあります。

入学後は、筆記試験・レポート試験・研究論文など、文章を書く機会が増えます。いま一度、「他人に見せる・読んでもらう」という観点から、自分のレポートを読み返してみてください。漢字の書き誤り、変換ミスはありませんか。句読点の打ちかた、段落分けは適切ですか。ごく基本的なきまりごとですが、大学生になる前に、きっちりと確認しておいてください。

日本文学研究学域は、日本文学専攻と日本文化情報学専攻との二つの専攻からなっています。課題図書は、学域と専攻における主要な研究対象に関する基礎知識を、ひととおり勉強できる入門書でもあります。今回の課題とは関係なく、四冊すべてを読んでおくことを推奨します。